

2 - 7 男鹿・仁別における地磁気永年変化精密観測 (1983年1月～1984年4月)

Precise Observation of Geomagnetic Secular Variation at Oga and Nibetsu
(January, 1983 - April, 1984)

東北大学 理学部
Faculty of Science, Tohoku University

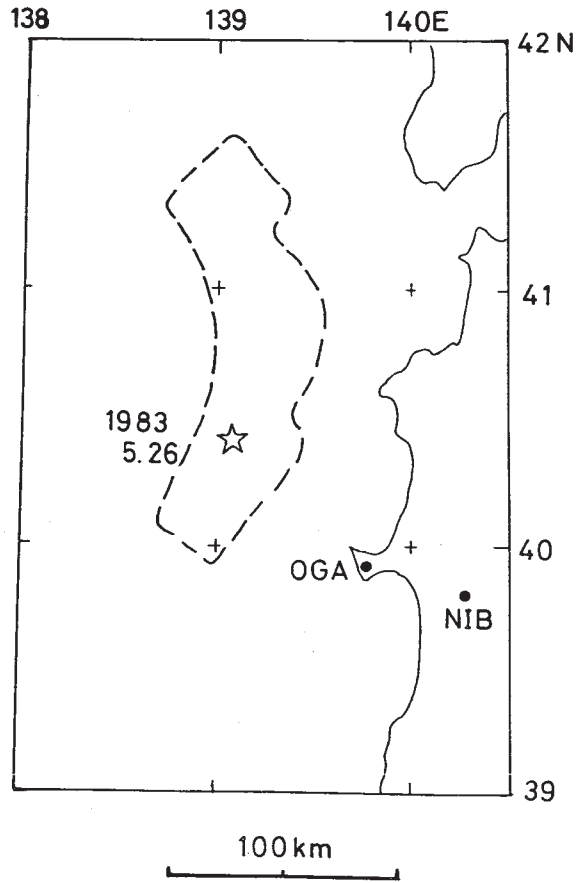
前回の報告¹⁾につづいて、男鹿観測所 (OGA) 及び仁別観測所 (NIB) (第1図) における全磁力観測結果について報告する。

使用したデータは00時00分～01時30分 (JST) の毎10分値である。第2図に各時刻での全磁力差10ケの平均値とその標準偏差とを示した。また、合わせて仁別での同時刻の全磁力値の平均値とその標準偏差とを示した。1983年8月以後で標準偏差が小さくなったのは、計器の調整によるS/N比向上に伴うもので、外的要因による変化ではない。

第1図からわかるように、男鹿観測所及び仁別観測所は、1983年5月26日の日本海中部地震の本震から震央距離がそれぞれ80 km及び120 kmの位置にある。前報¹⁾でも指摘したようにこの本震前後では2つの観測点での全磁力差には有意な変化は見られない。その後6月から9月にかけて、男鹿観測所で相対的に約1 nT減少する変化があった。同程度の振幅を持つ短周期変動は他の時期にも見られるので、この変化を地震に伴ったものと断定することはできないが、地震の余効変動に対応する変化である可能性もあり、地殻変動等他種の観測値と対照しながら解析が進められている。

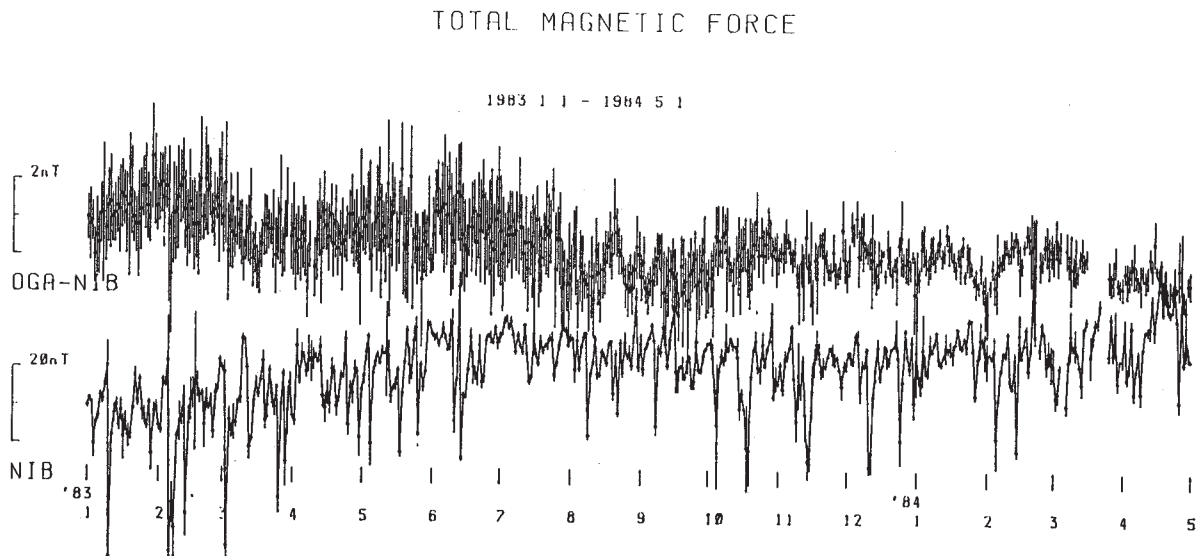
参 考 文 献

- 1) 東北大学理学部：男鹿・仁別における地磁気永年変化精密観測，連絡会報，**31** (1984)，108 - 110.



第1図 男鹿観測所（OGA）及び仁別観測所（NIB）の位置と1983年日本海中部地震の本震震央（星印）と余震域（破線）

Fig. 1 Locations of Oga (OGA) and Nibetsu (NIB) observatory and the epicenter and the aftershock area of the 1983 Central Japan Sea Earthquake.



第2図 仁別に対する男鹿の全磁力夜間値差の変化（1983年1月～1984年4月）

Fig. 2 Day-to-day change of difference of night time total force at OGA from that at NIB for period from January, 1983 to April, 1984.